第 21 回　日本生殖心理学会　学術集会
P-1
岐阜, 2024.2.25

統合医療における心理カウンセリング　――患者の心理支援のための連携

橋本　知子[1], 五寶　秀美[1], 中岡　義晴[1], 森本　義晴[2]

[1]IVF なんばクリニック [2]HORAC グランフロント大阪クリニック

【はじめに】

当院では統合医療部門として精神的なサポートのためのカウンセリングと体質改善のサポートとしての補助治療が連携し、患者に対応する部門がある。その入り口としてコーディネーターが問診を行い、患者のニーズに応じてサポートを提案し、その中で心理カウンセリングを勧めることがある。一方、心理カウンセリングは何かあれば利用したいというニーズはあっても実際の利用にまだハードルが高いのが実情である。

当院ではコーディネートから心理介入へとつながった事例が多く、これを後方視的に検討し、心理支援連携についてその特性と効果を考えたい。

【目的】

統合医療コーディネートから心理介入へとつながった事例について、相談内容を分析し、心理支援連携の有効性について検討する。

【方法】

期間　2022 年 4 月 1 日～2023 年 9 月 30 日

対象　心理カウンセラーが関わった女性患者 73 名、平均年齢 39.2 歳

内容　心理カウンセリング、自律訓練法指導

【結果・考察】

73 名中対象期間以前から継続的に心理カウンセリングを利用しているものが 8 名、心理カウンセリングを単独で利用したものが 18 名、コーディネートから心理へとつながったのは 47 名であった。心理利用後の経過は心理カウンセリング単独利用の場合、治療中断や治療終結となるなど明確な主訴のあるものの割合が多かった。一方、コーディネートから心理につながった患者では夫婦間や他の家族、周囲の人達といった対人関係の悩みと、不安や緊張、落込みといった気分の問題が多く、さらに心身症状が重なっているものもあった。このような不妊治療の負荷を契機とする対人関係や患者自身の心身状態に不調に対して、統合医療という枠組みは心理支援の契機として有効と考える。